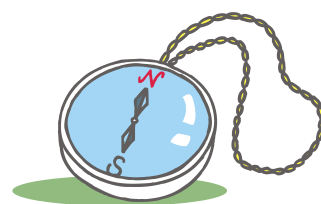


羅 針 盤

第 **23** 号

令和2年（2020年）11月2日（月）



◆ 大きな耳 小さな口 優しい目

先週末に実施された文化祭では、各学年の舞台発表をはじめとして、各部活動からの発表、各サークル活動からの発表、また、幕間ショーなど、何れも見ごたえあのある、創意工夫がなされた素晴らしい発表でした。自己表現するための場面設定として、誰にとってもそのような機会が持てたことは、今後の様々な活動でも、それぞれが自信を持って取り組むことができると確信しています。さて、自己表現をしっかりと行うためには、まず誰もが「コミュニケーション能力」を培っておくことが大前提ではないかと思います。その「コミュニケーション」を養っていくために最も必要とされる手段は、お互いの意思疎通のために日頃から誰もが行っている「会話」であることに間違いありません。自ら発言し、相手の発言を聞くことで成立する「会話」、これは言葉のキャッチボールであり、相手が伝えたい内容をしっかりと理解したうえで、自分が伝えたい内容をできるだけわかりやすく表現して投げかけることで成立するものであり、自分自身の思い込みで相手の話を理解したり、一方的に自分の意見だけを伝えることでは会話が成り立つことはなく、このように会話が成立しないことを皮肉って言葉のドッジボールと呼ぶ人もいます。つまりは、自分勝手な言葉のやりとりのことです。

人の付き合い方を表す言葉に、「大きな耳、小さな口、優しい目」というものがあります。「大きな耳」というのは、まずは人の話をしっかりと聞きなさいということです。「小さな口」というのは、自分の意見を言い過ぎないということです。なぜ私たち人間には口が一つで、耳が二つあるのかと疑問に思ったことはありませんか。耳が二つあるのは口の二倍の働きが必要だから。つまり、話すことの二倍人の話を聞きなさいということの意味しているのではないのでしょうか。人の話を十分に聞くこともなく、自分の主張ばかりしてはいけません。自分の意見を理解してほしいときこそ、口が一つで耳が二つあることを思い出してみたいのではないでしょうか。そして、最後の「優しい目」というのは、目配りや気配りができるということです。話している相手の気持ちを考えながら会話をするということが何よりも大切なことではないのでしょうか。自分の心を広く優しくしている状態を「優しい目」という言葉で表しています。人との「コミュニケーション」では、是非とも「大きな耳、小さな口、優しい目」を心掛けてほしいと思います。



◆ 物思いにふける季節

紅葉の美しい季節が近づいてきています。陽の光も和らぐこの季節は、静かに物思いにふけるのに最も適した季節かもしれません。一日の時間は限られてはいませんが、自分自身の持っている想像力を豊かにするためには、ときには時間を忘れて、豊かな自然を求めて野山へ足を運んで森林浴をしてみたり、公園で読書をしてみたりするのもいいことかもしれません。日常とは少し違う空間を求めると、日頃は気づきもしなかったことに感動を覚えたり、いつも見ている景色が違ってみえてくることもあると思います。

